

各位

会社名 株式会社 MCJ
 代表者名 代表取締役会長兼 CEO 高島 勇二
 (東証第二部 コード番号: 6670)
 問合せ先 経営企画室 広報 IR 担当
ir-otoiawase@mcj.jp

ESG 方針の策定のお知らせ

当社グループ各社はその事業特性や企業ステージを踏まえ、環境対応や地域社会への貢献活動等を行ってまいりましたが、当社はこの度、当社グループ全体としての ESG 方針を策定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

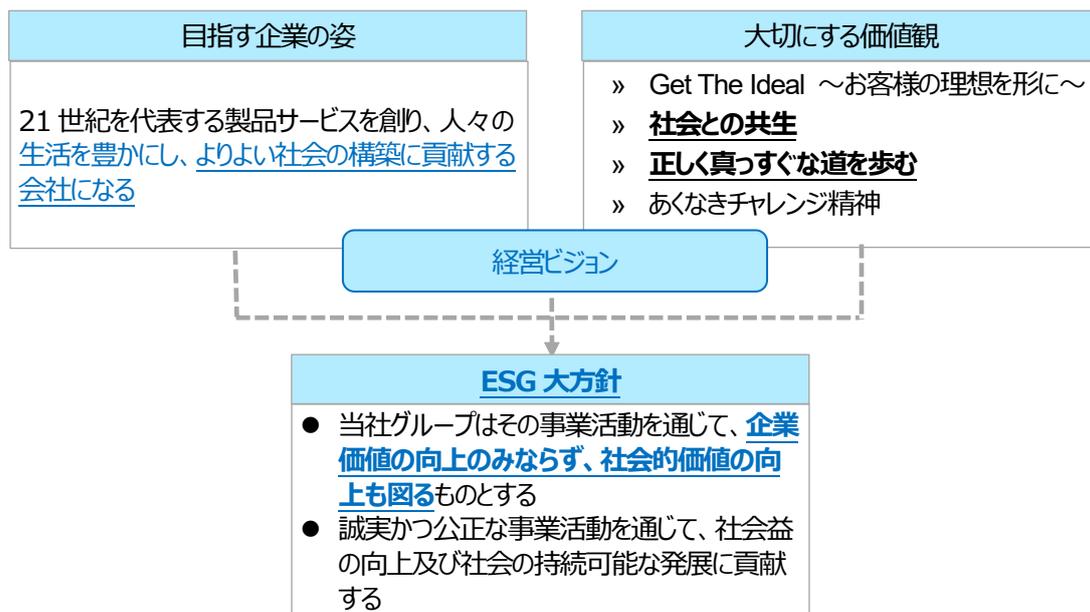
記

当社は、経営ビジョンとして、「私たちの目指す企業の姿」「私たちが大切にする価値観」の2つを掲げております。

このような経営ビジョンのもと、事業活動を通じて企業価値及び社会的価値双方の向上を追及し、社会益の向上及び社会の持続可能な発展により一層の貢献を果たすべく今回方針策定を行ったものであります。その中で、以下を大方針として掲げ、具体的行動をより強化して参ります。

- Environment：製造に関わる企業として資源循環、エネルギー問題等への積極的な貢献を果たす
- Social：人と人の生活基盤である会社・社会をより良い場所にすべく貢献を果たす
- Governance：持続的な企業価値及び社会価値の向上の為の基盤と位置づける

<ESG 大方針>



※詳細につきましては、次頁以降をご参照ください。

以上



株式会社MCJ ESGの考え方及び方針



株式会社MCJ

2020年7月1日

MCJグループのESGの考え方

MCJグループのESGの取り組み全体像

目指す企業の姿

21世紀を代表する製品
サービスを創り、人々の生活
を豊かにし、よりよい社会の
構築に貢献する会社になる

大切にしている価値観

- » Get The Ideal ～お客様の理想を形に～
- » 社会との共生
- » 正しく真っすぐな道を歩む
- » あくなきチャレンジ精神

経営ビジョン

ESG大方針

- 当社グループはその事業活動を通じて、企業価値の向上のみならず、社会的価値の向上も図るものとする
- 誠実かつ公正な事業活動を通じて、社会益の向上及び社会の持続可能な発展に貢献する

重点的に取り組む課題

E

Environment

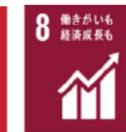
製造に関わる企業として資源循環、エネルギー問題等への積極的な貢献を果たす



S

Social

人と人の生活基盤である会社・社会をより良い場所にするべく貢献を果たす



G

Governance

持続的な企業価値及び社会価値の向上の為の基盤と位置づける



重点的に取り組む課題

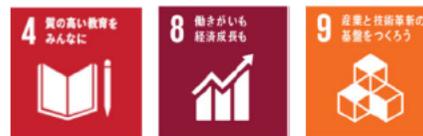
Environment



製造者としての地球環境への責任

- 事業活動における環境負担の低減
- 環境負担の低い製品開発
- 消費エネルギー抑制による環境負担の低減
- 資源環境の推進
- 資源利用効率の向上による資源消費の抑制
- ...

Social



持続的成長の為の人的資本及び地域・社会への貢献

- 社内外の研修等を通じた人材開発及び育成の強化
- 採用や制度による多様化への取り組み
- 働きやすい環境創り
- 取引先を巻き込んだ責任ある調達体制の構築
- 地域社会との共生及び貢献
- ...

Governance



攻めと守り、双方のガバナンス体制の構築

- 成長戦略の明示化及び推進体制・監督体制の強化
- 公正な業務慣行の推進
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ対策
- ステークホルダーとの対話及び関係の強化
- ...

事業活動を通じて企業価値及び社会的価値双方の向上を追及する

具体的な取り組み ～E～



Environment
全体方針

- 製造にかかわる企業として地球環境への責任を果たす
 - » 資源環境、エネルギー問題をまずは中心に具体的アクションを起こす

主な取り組み項目

グループ各社における具体的な組み（例）

自社バリューチェーンに係る全ての項目において環境への配慮に向けた施策を実施

開発・調達・製造に係る環境配慮

販売後に係る環境配慮

法令や基準順守

その他の取り組み

- » 開発環境/生産設備等におけるオゾン層破壊物質の不使用
- » デザイン工夫によるプラスチック使用削減
- » 製品への Ecoモード搭載やモダン化による消費電力の削減
- » 工場監査及び環境調査を通じたサプライヤーの環境配慮取り組みの確認等
- » 使用済み製品の自主的なリサイクル回収システムの確立
- » 使用済み製品の下取り及び買取サービスの提供等
- » RoHS指令適合、J-MOSS基準適合部材の採用、グリーン購入法や海外環境規制適合製品の製造、ISO14001認証の取得等
- » 年間 CO2 排出量及びエネルギー消費効率の把握、電気使用量把握
- » 騒音・下水環境モニタリングの実施等

具体的な取り組み事例 ～E～

各種法令・規制等の順守

製造過程・製品等における各種制度の順守及び取り入れ
→環境を念頭においた事業活動の展開

【PCリサイクル・回収・下取りの推進】



【環境を配慮した製品開発・購買活動】



【一部事業所にてISO14001認定種取得】



工場における太陽光パネル設置

ユニットコム出雲工場屋根部分
→ 電力使用料の削減を図る



具体的な取り組み ～S～

Social
全体方針

- 人と人の生活基盤である会社と社会をより良い場所へ
 - » 持続的成長に向けた人的資本への投資及び地域・社会への貢献

主な取り組み項目

グループ各社における具体的な組み（例）

人的資本及び地域・社会への貢献を通じてより良い社会築くことに注力

人材開発及び育成

ダイバーシティ対応

安全と健康の推進

その他の取り組み

- » 社内のみならず外部研修を含めた各種研修制度の提供
- » 次世代管理職候補へ向けたテーマ研修や選抜研修の実施
- » 社内公募制度の活用等
- » 性別に関わらずキャリア形成出来る環境や評価体制の構築
- » 法定雇用率を上回る障がい者雇用
- » 大卒以外の学歴者の採用強化、非正規社員の正社員化の加速
- » 勤務時間調整、在宅勤務等の柔軟な勤務体制の整備等
- » ハラスメント規定整備及び研修の実施
- » 残業削減、定期健康診断・ストレスチェックの実施等
- » 事業拠点のある地域における寄付や協賛等の貢献活動
- » 購買方針説明会の定期的な実施
- » 紛争鉱物に対する対応等

具体的な取り組み事例 ～S～

M
C
J

M
C
J

寄付・協賛活動

事業拠点における寄付等の活動
→ 地域との共生・貢献

【新型コロナウイルス流行を受け医療用マスクを寄付】



【製品などの寄付活動】

書籍制作し
全国の小学校へ寄付



長野県飯山市へ
タブレットPCを寄付



人材開発等の取り組み

各種研修制度・キャリア支援
→ 人的資本への投資・支援

【定期的な研修に加え、非定期も随時実施】



具体的な取り組み ～G～

Governance
全体方針

- 持続的な企業価値及び社会価値の向上の為の基盤
 - » 攻めと守り、双方のガバナンス体制の構築を通じて事業基盤の強化を行う

主な取り組み項目

グループ各社における具体的な組み（例）

持続的な企業価値・社会的価値向上の為の
基盤として、攻め・守り双方を強化

“攻め”部分の強化

ステークホルダーとの関係

“守り”部分の強化

その他の取り組み

- » 中期経営計画の策定及び発表による長期ビジョン・経営方針の明示化
- » 中計によるグループ成長戦略の明示化
- » 中計におけるROE、配当性向を含む主要KPI目標の設定等
- » 機関投資家向け説明会及び個人投資家向けIRイベントの強化
- » 配当性向の向上、株主優待制度の実施
- » 取引先説明会の実施等
- » 取締役会メンバーの多様化・強化及び社外役員の役割を強化
- » 情報セキュリティ対策、内部通報制度の構築、コンプライアンス研修の実施等
- » 上記及びその他の取り組みにおける詳細は、コーポレートガバナンス報告書を参照

具体的な取り組み事例 ~G~

“攻め”及び情報発信

長期ビジョン・中計策定及び情報発信の強化 →経営戦略立案×IR活動強化

【中期経営計画立案及び公表】

長期経営ビジョン ~ハードウェア×サービスの両輪による成長~

経営ビジョンの事業方針

- 取扱製品 (ハード)**
 - 信頼性・安定性を重視する、長寿命なハードウェア製品を開発・提供し、幅広い用途での導入を促進する。
 - 高度なセキュリティ性能を備えたハードウェア製品を開発・提供し、幅広い用途での導入を促進する。
 - ハードウェアの高度な信頼性を確保する。
- コンテツ・サービス分野**
 - ハードウェア・サービス領域での成長を加速し、幅広い用途での導入を促進する。
 - ハードウェア・サービス領域での成長を加速し、幅広い用途での導入を促進する。
 - ハードウェア・サービス領域での成長を加速し、幅広い用途での導入を促進する。

値及びKPI指標推移

指標	2018年3月期実績	2019年3月期実績
7月対7月	124,544百万円	137,264百万円
百万円	8,504百万円	9,648百万円
%	6.8%	7.3%

面々の位置づけ

● グループ全体の成長を加速する

● 主要な事業の成長を加速する

● M&A、ベンチャー投資、買収、提携等による成長を加速する

高まった収益基盤の強化・投資強化のバランスを取り、将来ビジョン実現の第一歩を踏み出す

● 配当性向 (当連結会計年度) 20.5% → 30.2% → 30%以上

● DOE (ROE) 2.7% → 5.5% → 4.5%程度

※中期経営計画より抜粋

【IR活動の強化及び活動実績】

2019年3月期における主なIR活動実績

現在におけるIR活動の考え方

- 長期的な成長・利益の拡大
- 投資家との関係性を強化する
- 透明性の高いIR活動の実施

2017年3月期からの考え方

- 投資家との関係性を強化する
- 透明性の高いIR活動の実施

主な活動実績

- 投資家との関係性を強化する
- 透明性の高いIR活動の実施

※2019年3月期決算説明会資料より抜粋

“守り”部分の取り組み

CG報告書策定 → 基本的な考え方の開示

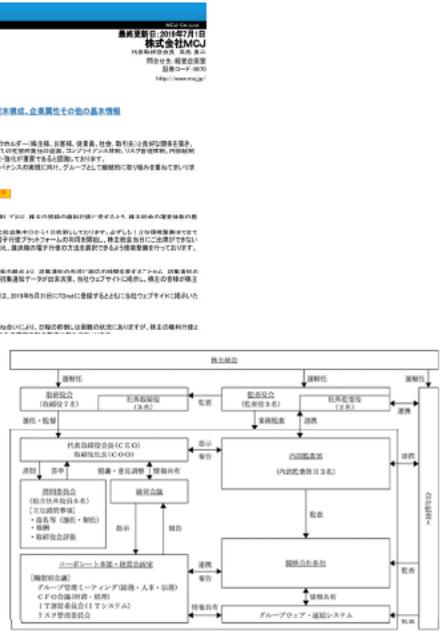
【コーポレートガバナンスコード策定・発表】

<https://www.mcj.jp/ir/management/cg.html>

コーポレートガバナンス・コードに関する当社の取り組みについて

2019年7月1日
株式会社MCJ 取締役会

- 第1章 株主の権利・平等性の確保
- 【基本原則1】**
上場会社は、株主の権利が実質的に確保されるよう適切な対応を行う権利を適切に行使することができる環境を整備を行うべきである。また、上場会社は、株主の実質的な平等性を確保すべきである。少額株主は、株主の権利の実質的な確保、権利行使に係る環境や実質的な平等性が生じやすい環境があることから、十分に配慮を行うべきである。
- 【説明】**
当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現していくスタートアップ段階での適切な環境が重要であると認識しており、特に少額株主は、株主の権利の実質的な確保、権利行使に係る環境や実質的な平等性が生じやすい環境があることから、十分に配慮を行うべきである。
- 【原則1-1 株主の権利の確保】**
上場会社は、株主総会における議決権をはじめとする株主の権利の行使、適切な対応を行うべきである。
- 【説明】**
当社は、株主の権利が実質的に確保されるよう、法令に基づくとともに、その環境を整備しております。
- 【基本原則1-1①】**
取締役会は、株主総会において可決した事項に賛成したものの相対数の反対票があったと認めるときは、反対の理由や反対票が多かった原因の調査その他の対応の必要性について検討を行うべきである。
- 【説明】**
当社は、株主の権利が実質的に確保されるよう、法令に基づくとともに、その環境を整備しております。



免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提として作成されており、実際の業績等は様々な要因によりこれらの見通しとは異なる可能性があります。

当社は、これらの将来の見通しに関する事項を常に改定する訳ではなく、またその責任も有しません。

尚、実際の業績等に影響を与える主な項目例は以下の通りとなりますが、将来見通しに影響を与える項目はこれらに限定されるものではありません。

- » 当社グループの事業領域を取り巻く各種経済情勢
- » 当社グループの製品・サービスに対する需要
- » 新製品等開発に係る当社グループの能力及び新製品・サービスの動向
- » M&Aや他社との事業等の提携
- » 資金調達環境、為替動向等の財務を取り巻く環境
- » 事故・自然災害等

< IR及び本資料に関するお問い合わせ >

株式会社MCJ
経営企画室 広報IR担当

E-mail : ir-otoiawase@mcj.jp
HP : www.mcj.jp/

MCJ
HOLDING COMPANY